

空手を愛する仲間を紹介!

生涯の空手道



——簡単なプロフィールを教えてください。

極真会館熊本県早田道場の早田信と申します。

46歳で極真空手歴30年になります。

地元テレビ局で番組制作を担当するディレクターを行いながら、極真空手の指導普及に務めています。

早田道場は今年1月に誕生した新しい道場です。

——道場の指導理念を教えてください

生徒によって、空手をする目的が違います。

大きく分けると、次の4タイプになります。

- ①大会で好成績を目指す生徒
- ②試合にはこだわらず体を鍛えたい生徒
- ③強い心を目指す生徒
- ④親に連れてこられていて、自分の意志でやっているわけではない生徒

——一見バラバラのように思えますが、



現在も大会で活躍。全日本大会4回出場、全日本ウエイト制大会7回出場。第24回香川県空手道選手権大会一般部3位(8月18日)。極真会館関西総本部主催大阪城杯夏の陣優勝(9月8日)。

全ての生徒に通ずる稽古理念は「空手で学んだことが空手以外のところで役立つ稽古」です。

例えば①大会を目指す生徒に関しては、大会までの時間、与えられた環境で自分を高め、本番では集中力を発揮し、最善を尽くすことを徹底します。

もし失敗したら、挫けずに失敗した理由を分析し、再挑戦するよう指導します。

こうした感覚が身につけば、社会に出て、成りたい自分が見つかった時、実現するための道筋を自分で進んでいきます。

——道場のみの空手だけではいけないのですね。では②の体を鍛えたい生徒へのアプローチは？



早田道場・一般部の皆さん。

ただ筋力・持久力・瞬発力を高めるだけでなく、考えながら行う稽古で、疲れていても冷静な判断ができるよう指導します。

鍛えた先に何かあるのか? 強い体と、苦しい状況での正しい判断力を体得したら、将来、大切な何かを守れる、かけがえない存在になれるます。

③の強い心を目指す生徒には、「自分の中にあらわれる「怖い・痛い・きつい」と何度も戦う機会を与えています。



第1回熊本県極真空手チャレンジカップも開催。

「あんなに怖がったり、痛がったりして、骨も折れていない、死んでもいいんだよ。この後、あなたは、普通にご飯食べて、寝て、明日学校で友達と遊ぶでしょう？」



将来を見据え、時に厳しく、時に優しく子供に接する早田師範。

「④の自分の意志でやっていない子供にはどう接していますか？」
空手をやる意味がその時分からず、生徒は手本を真似させることで、見たことを真似る能力を高めさせ、基本稽古の繰り返しなどで地味なことをコツコツやる我慢強さを身につける指導をします。

早田信
1989年4月極真会館熊本支部・三村道場(後の松井派 熊本支部)入門。2010年5月三村恭司師範が松井派脱退し、極真会館熊本本部設立。それに伴い師範代就任。2019年1月、三村師範から代表を受け継ぎ、一般社団法人極真会館に加入。熊本県早田道場代表に就任。
<https://kyokushin-kumamoto-souda.net/>

「直近の目標達成を一緒に目指す一方で、知らぬ間に大人になった時に役立つような様々な工夫をしているのですね。」
指導員として一番の喜びは生徒が空手をやっている時の目標を達成した時ではありません。生徒が空手を辞めた後、「空手をやっていて良かった」と大人になって思ったり、自分で見つけ

最初は、やる前から怖くて泣いたり、たいしたことのない攻撃を怖さから痛い、挫けたり、苦しんで動けなくなってしまう……。そのような経験を体験しますが、落ち着いた後にこう言います。

「怖い・痛い・きつい」と思う自分がいなくなります。そしたら、その子は、これから何にでも挑戦できるようになり、自分の可能性が無限に広がっていきます。」

この感覚が身についたら、気が付いたときには、空手以外のスポーツでも上級者の真似が上手になり、覚えが早い人になれます。またコツコツ努力への免疫は、さらなる飛躍への近道となります。このように、目の前の目的はそれぞれですが、私は生徒が空手を辞めた時の事を考えて指導しています。

「目標を空手で身につけたことで叶えたりした時です。今後、生徒の未来の姿を見据えた稽古を行っていききたいと思います。」



早田師範の話に耳を傾ける子供たち。



気合が道場いっぱい響き渡る。